

シジュウカラガン（カモ科） 全長 55～67 センチ

1月中旬大潟村に出掛け、シジュウカラガンを探し回った。

昨年1月の大仙市内の積雪は1メートル程もあったが、大潟村では僅か数センチで、同じ秋田なのにこんなにも差があるのかと、羨ましく思ったものでした。

しかし、今年はこれまで経験ないような暖冬が続き、大仙市も大潟村も同じ天気ではないか。



マガンの群れに混じり、やっと見つけた。

村内の主要道路に入ると直ぐ見つかったのがマガンとヒシクイ。なんと多いことか、その数ざっと数千羽。この中にシジュウカラガンが混ざっていないか必死に探し回った。マガンの群れからやっと3羽が見つかりました。

周辺を丹念に見回すと、マガンの後方に十数羽も見つかった。下向きで落穂などの餌を食べていたが、頭を上げた時に両頬が白いのを確認。やっとシジュウカラガンと分りました。やはり仲間同士が群れを作りながら行動していたのです。



採餌中、頭を下向きにしていると判別が難しかった。



マガンと一緒に飛び出した。

県内では大潟村以外では殆ど観察されていません。

昨年1月、日本野鳥の会秋田支部でのカモ類一斉調査では、1261羽がカウントされ、年々増加傾向にあるようです。

20年ほど前は国内への飛来数が数羽程度でしたが、国際的な繁殖計画が成果を上げここまで増えてきたものです。絶滅危惧種ⅠAに指定されています。



2013年横手市で撮影。カルガモと比べわずかに大きいだけで、亜種のヒメシジュウカラガンと思われます。



シジュウカラガンと比べるとかなり小型で、首に白い輪がありません。